

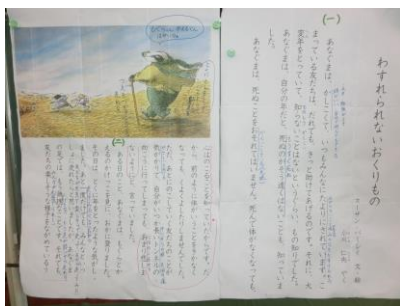
- (1) 単元名： 願いをうけ止めて読む
- (2) 単元目標： 場面の移り変わりに注意して登場人物の気持ちの変化や情景を想像しながら読む
- (3) 教材：「わすれられないおくりもの」 スーザン＝バーレイ
- (4) 本時の目標： 死へ旅立つ、あなぐまの様子や気持ちを読み取る

国頭村へき地教育研究会西3校（佐手小・北國小・奥小）の授業研究会。今年度の西3校の公開授業担当校の佐手小で、3校の職員とJICAインドネシア研修員（25名）の参観者の中で佐手小赴任2年目のY先生が国語の「学び合い」に挑戦である。

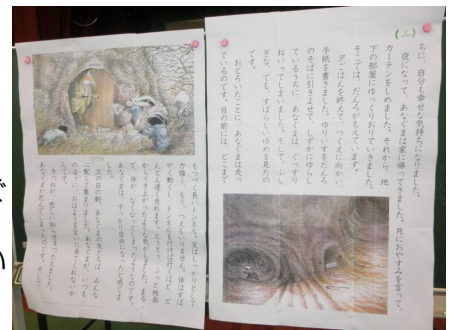
右の写真を見てどう思いますか？児童3名を約50名の大人たちが囲んで研究授業がなされます。3名の児童の小グループを3校の職員が見守り、さらにその後ろでインドネシアの訪問団が授業と研究会の様子を視察しています。これほどの大人が学校に集まるということもめったにないことなのです。授業前に一人の男の子が「おれ、逃げ出そうかなあ〜」とぶつぶつ言っていた。痛いほどよくわかる気持ちである。授業前にすでに躓く男の子の状況を、参加者それぞれが気かけながら授業は淡々と始まる。



【国頭村ではすっかり定番になった教科書の拡大コピー】



スーザン＝バーレイはこのお話で何を子ども達に伝えたかったのか？子ども達がどうテキストに親しみ自分なりの読みをどう深め広めていくか。本時は（三）の場面、「あなぐまの死」への場面である。右写真が（三）、本時の「学び合い」の御馳走である。多様な読みから新たな自分づくりへの挑戦である。



【授業開始】14:00 前時までのお話の内容に軽くふれ、（三）の場面の読みに入る。

授業者は、始めに全文の音読を指示する。その後（一）～（二）の場面を大型教科書でふり返える。お話の概要を確かめる。→ 14:10 本時（三）の場面の読みに入る。

▲ちょっと長い！（一）～（二）をふり返り、その後お話の余韻を残したまますぐ（三）の場面の読みに入りたかった。最初の全文音読と、振り返りの教師の話に多くの時間を要してしまった。

『今日は何をする』を大切にしたい。教師が語って子どもがうなずくより、子ども達に語らせて教師がうなずく授業を心がけたい。



授業開始前から子どもの虫の居所が悪かった。もちろん本人に悪気は全くない。「逃げ出そうかなあ」理由の詮索よりも、大切なのはこんな時教師はどう対応するかである。はたして決まったマニュアルがあるだろうか？「こうすれば→こうなる」そんな簡単ではない。まず教室の状況、教室内の人間関係（教師と子ども、子どもと子ども）は実に様々である。ある教師の手法がここで通用すると断定できる人などいるはずがない。多くの教師が学級経営、授業経営で悩んでいる。私からのアドバイスとして、「この子にとってこんな時は『こんなケア』が有効的であるという、授業者が見つけていくことである。」。一人ひとりの「この子にとって」の信頼と安心を築くことに目を向けていきたい。



【(三)の場面を読む】 14:10 一人読み2回。指名読み。全員読み(斉読)。



みんなしたためるようにじっくり自分のペースで読んでいる。特に女の子の「読み」は素晴らしいものだった。参観者誰もが感心したのではないだろうか。指名読みの後、再度一斉に音読させたが、二人の男の子が無意識に女の子の読みに合わせて読んでいるのが分かった。子ども同士の勝手なモデリングでもあるのではないだろうか。

【書き込む】 14:16 気づきや疑問に線を引いて、考えを書き込む。



まだまだ、不慣れな3年生。2人が24年度途中からの転入生と、一人は25年度4月からの転入生である。日常の授業では困ったときに助けてくれる4年生がいるが、今日は、3年単学年での授業である。依存がうまくいかない。気にかけてくれる余裕が3年生の中では厳しいものとなる。4年生から「学び方を学ぶ」設定でもよいのでは。



【共有する】 14:25 授業者の問い:「素晴らしいゆめ」とは なんだらう。



:「トンネルの向こうに走って行ったアナグマ…」
女の子:あなぐまは死ぬことを知っていたから手紙を書いた。…
男の子:挿絵の中の「つえ」を指す。…
女の子:死んで自由になったからもう「つえ」はいらない。
単発な教師の発問(質問)に端的な回答になり、なかなか、3人の思考が繋がらない、教師はどうにかつなげようとするが難しい!
△ 子どもに共通のテーマを下ろしてそのことについての「学び合い」を促す。例「だれに どんな 手がみ書いたかなあ。」みんなで相談してみて? → 子ども達にあずける。テーマでつなぐ

【教材研究】キーワードの提示

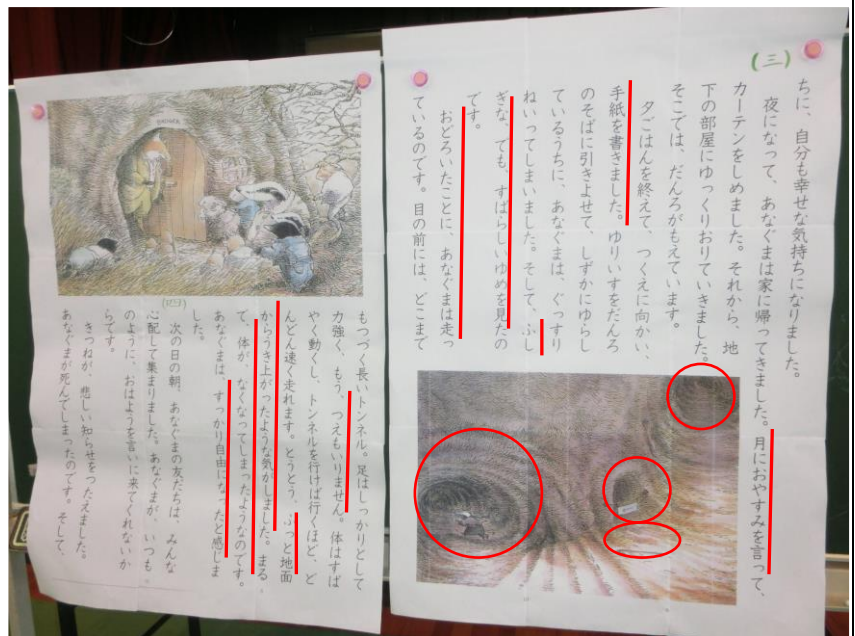
子ども達の「学び合う」が滞るとき、学び合いのきっかけとなるキーワードを準備しておくことは大切である。教師も学び合いのきっかけとなる言葉探しに結構悩んでいる。

教室の状況に応じたテキストからの教師の教材研究が鍵となる。

大切な教師の姿勢がある。それは子ども達に互いに「語り」合わせる(互いに向かい合わせさせる)である。

右の写真の赤線は、あくまで私が考える例である。縛られる必要も何もない、日常の教室で、校内で、職員で同僚と相談として共有して取り組んでいってほしい。

(例):3つの穴の意味は?
:鎖と矢印はなに?
:すっかり自由って?



Y先生お疲れさんでした。西3校、インドネシア訪問団、約50名の大人たちに囲まれて緊張しましたね。先生の緊張感がひしひしと伝わってきました。

佐手小赴任2年目、早いものです、あと1年半しかありません。「学び合い」の授業には慣れてきましたか、焦らずゆっくりでいいです、取り組んでいく姿勢だけは「あきらめない」でください。村内全小学校で取り組み、中学校で一つになった時の子ども達の「これから」を想像しながら楽しくやっていきましょう。

佐手小職員の皆様、授業者のY先生には心より真摯に感謝申し上げます。

